

第 42 回 津市子どもの権利条例づくり推進市民委員会 報告

日 時：2014 年 11 月 19 日（水）18：30～

場 所：市役所 8F 大会議室 B

<参加者>（敬称略）

中村 潔（津市人権擁護委員協議会）、堀本浩史（すばる児童館）、増田和正（津市人権・同和教育研究協議会）、外岡博明（津市教育委員会事務局）、永合哲也（〃）、戸上喜之（津市こども支援課）、小林泰子（〃）、村田有香（〃）、田部眞樹子（津子ども NPO センター）、竹村 浩（〃）、野口寛子（〃）、谷口美子（〃）、山口久美子（〃）、山下恵子（〃）、浅原直美（〃）、川喜田ひろ美（〃）

進行：小林さん

●第 41 回市民委員会(2014 年 8 月 26 日)報告

- ・添付の報告書をみていただくことにした。
- ・前回の市民委員会を当日ではあったが延期する判断をしたことについて、事務局の竹村より報告。

「津市子どもの権利条例」をつくることについて、これまでも市の意向を待ってきたが、何の方向もないまま会議をもつ意味がないという判断し、延期させていただいた。

●これからの子どもの権利条例づくりの方向性、そのもとの市民委員会、子ども委員会のあり方についての検討。

- ・子ども委員会は、教育委員会を通して子どもの権利条例をつくるために参加して欲しいと学校にも案内していることから、教育委員会としては子どもたちにどう話していいかわからない。
- ・津市としてはどうするのか。待つて結果がでるのか。
- ・後期行動計画には事業として記載があるので、私達が津市はつくるのだと勘違いをしているのか…とも思う。担当課の戸上課長に伺いたい。
- ・4 月以降、市としての方向を出していないのは事実で、自分としても残念である。3 月までの取り組みについては報告書等の書面で見るとは全国に誇れるような取り組みであると思っている。公の場での市長の発言を聞いても残念に思うところはある。
- ・市民と協働でやってきた取り組みであってトップダウンでやってきたわけではないし、市長に問うことでもない。
- ・市民だけでやってきたわけではないし、学習会や報告会もはさみながら進んできたと思う。
- ・市の意向を待つ必要はない状況。これ以上引き延ばすわけにはいかない。
- ・市民委員会が終わるわけではない。条例づくりはしていかなければならない。こども支援課として「条例づくりが大事！」と思えるかどうか。上への働きかけも含めてやっていくという風に考えていけばやれるのではないか。
- ・県では、三重県子ども条例に照らして少子化の問題も話されていて、単に数を増やすことだけを話しているのではなく、条例に照らして子どもの成長していく過程を話している。照ら

すものそれが条例ではないか。

- ・市としてやっていく方向はあったと思っていた。
- ・学校現場にいた者としては、自己実現していく子どもが増えていくことが希望である。
- ・子ども子育て会議で質問したところでは、部長、参事は「条例づくりは、今のところは考えていない」という返答だった。
- ・誇れる津市になってほしい。職員の中でも大事だと言う意識をもってほしい。
- ・行政も一緒になって市民とともにつくっていく気概をもってもらえたらと思う。主体的な動きをするかどうかではないか。
- ・国が子どもの権利条約を批准し、三重県子ども条例がつくられたとなれば津市も考えることが自然ではないか。
- ・市は、推進しているからこそ予算をとっていたわけで、次年度の予算はどう考えているのか。
- ・予算要求はしています。
- ・市としての判断は不明。行政人としては個人で返答ができないことは理解できる。
- ・課長も必要だと思っていることは伝わってくる。
- ・子ども委員会としては市長にどう伝えていくのか。懇談の仕方によって申し入れ方も違ってくる。
- ・子ども委員会も沢山の取り組みをしてきて、人権教育課としては子どもの権利について教職員や子ども達に権利の話をしていくために参画してきたことに意味があるが、話しあいの目標がないと話すだけになる。
- ・26年度中を目指してやってきたが、4月に市長が代わったわけでもなくそれまでにも講演会や報告会をした時々につかってきた問題だったのだと思う。
- ・子ども委員会は大人の委員会と対でやっていると思っているので、市民委員会の場で一緒にやる時期がくるはず。市民委員会または教育の場であっても子どもの意思を聞く体制だけは必須であって、広めていくことに時間がかかるのだと思う。
- ・考えているのは少数派であって世論を高めていくことが必要。地域説明会はその為のものであったと思うが、ここでやった事を受けとめてほしい。子どもたちに対する責任として考えていく。
- ・昨年12月の時点で地域説明会をストップしたのは担当課に配慮したことであって、それは当然のことであると思う。
- ・子どもに還していくのは推進していくことではないのか。続けていく時にどう運営していくのか。運営がみえない。
- ・行政がともにやっていくことが力になる。学校を代表して来た子たちに対して一度整理してあらためて呼び掛け、再編する必要がある。
- ・アンケートではみえないことも、子ども委員会での直接の声から見えてくることもある。
- ・どういふかたちで続けていくのかについては次回に話しましょう。

●次回日程：12月25日（木）18:30～ 場所は後日メーリングリストで流します。